

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

授業研究委員長 本巢市立根尾学園 稲垣 直斗

1 はじめに

今年度、岐中社ではこれまでの実践を土台とし、公的分野を中心にした「集団における合意形成の授業モデル」の構想と実践を行うことを目的に取り組んできた。昨年度に引き続き、全国の社会科の動向を踏まえながら、岐中社が目指す方向性を改めて考え、検討し、実践する1年とする。これまでの中社研の理論と実践を再確認し、主体的に社会の形成に参画する力を育てるための社会科教育が広まっていくようにしていきたい。

2 研究報告

(1) 研究の方向性の確認

研究主題

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

【主体的に社会の形成に参画する力】

獲得した事実に関する認識に基づき、価値に関する認識を形成していくことを通して、主体的に社会の形成に参画しようとする資質や能力

事実に関する認識（結論が定まっているもの）

見方・考え方を働かせて得た知識や概念とそれらを活用して得た社会的事象の意味や意義

価値に関する認識（結論が定まっていないもの）

- ・相互の事実に関する認識の違いを踏まえた意思決定の判断基準（個人内での意思決定）
- ・相互の重視する価値に折り合いをつけて合意形成した意思決定の判断基準（集団での意思決定）

※価値とは何かという論争ではなく、結論が定まっているものを事実に関する認識、結論が定まっていないものを価値に関する認識と岐中社では定義する。

(2) 今年度の実践から考えたいこと

① 社会科における合意形成の要件の明確化【資料1参照】

集団での合意形成を進める際に価値が顕在化していく場合や、対立する価値があらかじめ明確な状況での合意形成など、岐中社が捉える「社会科における合意形成」や「価値」の概念を整理する。

② 合意形成の手段の捉えの明確化【資料2参照】

「合意形成の必然性」を検討する際、社会的事象をいかに「自分事」として捉えられるか、そのための「問題設定」が重要である。

- ・問題設定には一定の条件が必要。対立を含む問題であれば、価値の対立状況をシンプルに整理する。
- ・合意形成にあたっては、価値（判断基準）を明確化する手立てが必要。思考ツールの活用など。

Q10 「価値認識」とはどのようなことか。

A10 「価値認識」とは、様々な意見が対立する今日的な問題に対して、「事実認識」に基づいて意思決定して判断した内容をいう。よりよい、あるいはより正しい在り方が判断されることをめざす。

Q11 「価値認識」の「価値」とは、どのようなものか

A11 民主的な国家・社会の形成者としての資質。幸福、正義、公正、個人の人権など。
なお、本研究においては一般的に言う「価値観」とはとらえていない。「価値観」とするとそのもつ意味が多義になり、どんな考え方も認めてしまうことになる。

Q12 「事実認識」と「価値認識」は、どのような関係にあるのか。

A12 確かな「事実認識」の上に確かな「価値認識」が成り立つ。「事実認識」があつて、「価値認識」があるという順序性で考えている。ただし、これらを獲得したり形成したりする学習活動は、相互に関連し合っていて、必ずしも明確に区別できるものではない。

Q13 「社会の形成に参画する力」と「認識」は、どのような関係があるのか。

A13 社会の形成に参画するには、社会についてよく分かっており、その上でよりよい判断（参画のための意思決定）ができなければならない。事実認識と価値認識が、社会に参画する力となっていく。

Q14 価値認識の学習における「価値」と「概念」はどのような関係にあるか。

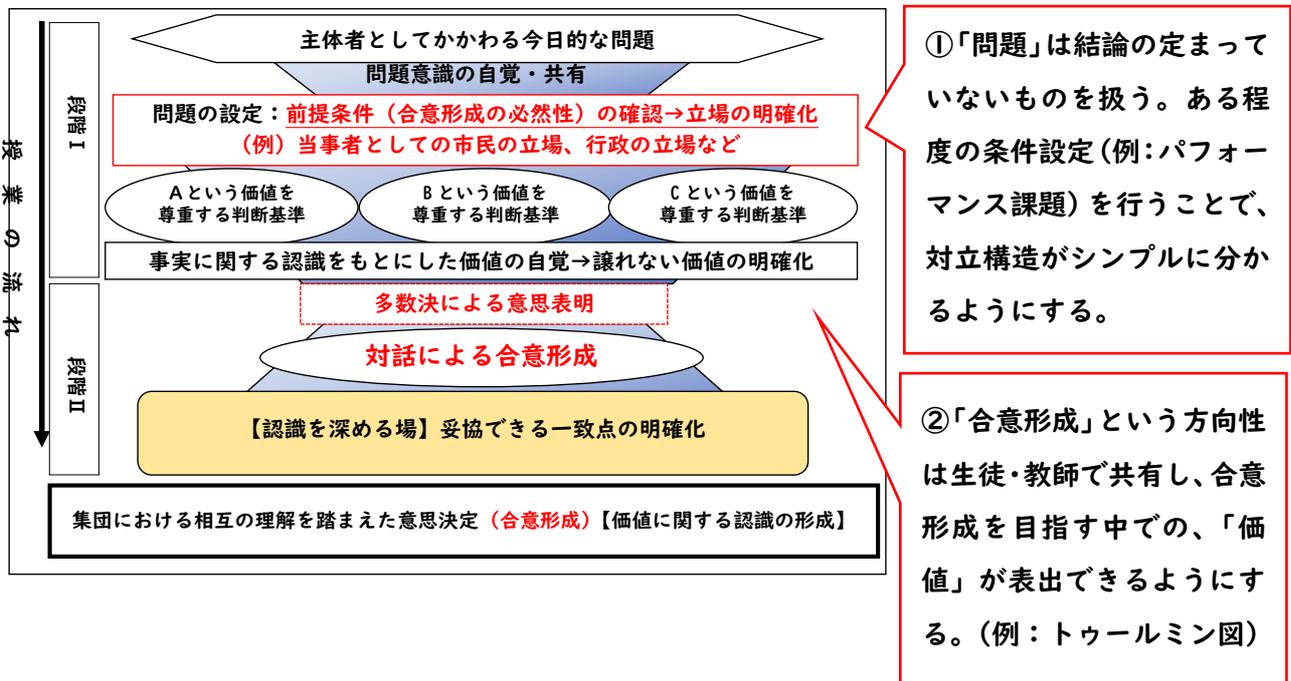
A14 「概念」とは、社会的事象や事物の共通性や規則性に関する知識。あるいは、本質や意味、意義を解釈するための枠組みとなる知識。法則や理論。「概念」などの「事実認識」を踏まえて判断するときの判断基準が「価値」である。両者に直接的な関係性はないと考える。

Q15 価値認識の学習において、「価値」と「意思」はどのような関係にあるのか。

A15 意思決定と価値判断はほぼ同じ意味で考えている。意思決定あるいは価値判断する際の判断基準が「価値」である。

(吹き出し、下線は稲垣が追記)

○価値に関する認識を形成する授業モデル (集団における合意形成)：合意形成する力



この授業モデルは、新たに設定するものであり、特に公民的分野におけるものである。このモデルでは価値に関する認識を形成する授業モデル (個人における価値形成) と同様に、生徒が主体者としてかわる評価や結論が定まっていない今日的な社会問題を取り上げる。令和7年度では、特に集団における合意形成に重点を置いた。個人における価値の授業モデルと同様の流れで、事実に関する認識をもとにした価値を自覚し、個人の意思決定を行う。ただし、この授業モデルでは、合意をする必然性がもてるように、「問題における当事者の立場」など、前提条件を揃えた上で考える。(立場は中学生の一人としての判断や) また、合意形成による集団での意思決定をしていくことから、多数決など (多数決に捉われず、自分の意思表示) により、自分の意見を決定し、譲れない価値を明確にする。(段階I)

そして、多数決の結果 (意見共有) をもとに、相互の価値を共有し、妥協できる一致点を模索する中で、対話による合意形成 (提案、配分決定など) を目指す。それでもなお、合意形成ができない場合、多数決等の手段による集団の意思決定を行う。(段階II)

上記の授業モデルを以下のように整理した。

- 1 今日の社会的問題に対して、「多数決」から合意形成を始める。(多数決に限らず自分の意思表示) →立場の明確化
- 2 多数決の結果 (意見共有) から、互いの意見を聞き合い、どのようにすれば合意に至ることができるのか対話を通して、解決策を考える。→対立点の整理 (教師の出場)
- 3 譲れない価値や、妥協できる一致点を明確にした上で、合意形成 (提案、配分決定など) を目指し、合意形成を行う。

このように、多数決⇒合意形成を目指す対話⇒合意形成という流れで集団における合意形成の授業モデルを構想し、実践していきたい。→今年度、公民的分野を中心に授業実践することができた。

また、終末場面においては、振り返り場面を確実に位置付け、合意形成に至るまでの個人の価値の変容などについて社会認識を確かなものとするようにしたい。→振り返りの実践にまでは至っていない。

(3) 今年度の実践から来年度に生かしたいこと

今年度の「合意形成」の授業実践をもとに、「社会科における合意形成」の授業づくりにおけるポイントを整理した。学術的な視点で根拠をもって検討し、来年度、授業モデルを再整理していきたい。

案 社会科における合意形成のチェックリスト（公民的分野）

1. 問題設定の工夫

- 生徒が「自分事」として捉えられる問題を設定できているか（生活や価値観と結び付く問い）
- 選択肢や立場を整理し、価値の対立点を明確にできているか（例：自由と権利など）

2. 合意形成のプロセス共有

- 合意形成のゴールが生徒と共有されているか（合意形成は手段であり、合意形成を通して、社会に主体的に参画する力を育成すること 例：提案、配分決定、判決など）
- 【意見表明・共有 → 対立点整理 → 妥協点探し → 合意形成】という合意形成のプロセスが明示され、生徒と共有できているか

3. 条件設定と資料の精選

- 判断基準となる事実や資料は社会的な見方・考え方を基に精選されているか（効率、公正、持続可能性など）
- 多様な立場や意見が分かりやすく提示される状況は整えられているか

4. 討議の形態と役割

- 小集団、全体などにおける生徒の討議スキルが育成できているか（要約、問い返し、論拠提示など）

5. 指導の視点（教師の役割）

- 対立点・共通点を整理し、議論の焦点を絞ることができているか
- 妥協点を整理し、新たな解決策を探る方向付けを示すことができているか

6. 合意形成後の振り返り

- 集団で議論の価値を確認できているか（何を尊重したか）
- 新たな問いや別の立場での捉え直しができているか

◆留意点

- 合意が本当に必要な問題か
- 単元や本時に至るまでの構成は適切か

3 おわりに

今年度は「合意形成」を中核に据え、授業実践に取り組んできました。特に、公民的分野の授業研究委員の先生方には、多様な実践を示していただき、研究がさらに一步前進しました。また、地理的分野・歴史的分野の先生方には、これまで岐中社が大切にしてきた「事実認識」に関する授業実践を中心に、着実な研究の歩みを積み重ねていただけたと感じています。

来年度は研究3年目を迎えます。岐阜県の社会科教員が一つの目標に向かい、生徒が主体的に社会の形成に参画できる資質・能力を育む授業を構想していきたいと考えています。

授業を公開してくださった先生方をはじめ、校内の社会科の先生方、勤務校の先生方に心より感謝申し上げます。この感謝の思いを込めて、本年度の締めくくりといたします。

一年間、本当にありがとうございました。